

令和5年度 自己評価書

学校名	北海道小樽未来創造高等学校
-----	---------------

1 学校教育目標

1 自立心、倫理観、規範意識、社会性の涵養
2 健康・安全、協働・敬愛の精神の醸成
3 専門的な知識や技術、実践力、創造力の育成

2 スクール・ミッション

(1) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じて柔軟に教育課程を編成し、個々の進路実現に向けて必要な能力や態度を身に付けた生徒の育成
(2) 望ましい勤労観、職業観を身に付け、自己実現のために努力する生徒の育成
(3) 後志管内の工業・商業教育の拠点校として、地域の未来を創造し、産業人として必要な資質・能力を身に付けた生徒の育成

3 自己評価結果

分野	評価項目	達成状況	職員アンケート評価	取組の適切さ	職員アンケート評価	改善の方策
教育目標	1 学校教育目標等について、教職員間の共通理解が図られている。	B	3.68	B	3.66	・学校評価の活用の推進 ・職員評価制度の活用の推進
	2 学校教育目標の実現に向け、積極的に取り組んでいる。	B	3.78	B	3.78	・職員研修の活用の推進
学習指導	3 生徒の実態や学科の特色を活かした教育課程の編成に努めている。	B	3.94	A	4.06	・教育課程の不断の改善 ・ICT機器の有効活用と授業改善の推進 ・授業規律の徹底と学習習慣の確立 ・朝学習を活用した礎学力の定着 ・測定ツールを用いた学力定着度合いの測定と補習等の学力ケアの充実
	4 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに学習習慣の確立に努めている。	B	3.84	A	4.16	
	5 学習意欲を高め主体的に学ぶための教科指導の充実と、評価の工夫・改善に努めている。	B	3.96	A	4.08	
生徒指導	6 基本的生活習慣の定着と規範意識の醸成を図り、生命と人間尊重の精神を育むように努めている。	B	3.96	A	4.06	・全教職員による一貫した指導の推進 ・組織的計画的な生徒指導の確立 ・基本的生活習慣の確立 ・安全教育の推進 ・生徒理解と教育相談の充実 ・子供理解支援ツールの有効活用
	7 自他の安全・安心を確保するための資質や能力を育てている。	B	3.84	B	3.94	
	8 一人ひとりの生徒を大切に、生徒理解に基づく指導の充実を図っている。	A	4.22	A	4.18	
いじめへの対策	9 教職員や家庭との連携を図り、未然防止・早期発見に向けた観察やアンケート、教育相談を推進している。	A	4.14	A	4.18	・生徒理解と教育相談の充実 ・いじめ対応の組織的取組
	10 学校行事等の検討を通して、活発な生徒会活動の推進と生徒の精神的成長を目指している。	B	3.88	B	3.98	
学校行事 課外活動	11 部活動等の活発な活動を推進している。	B	3.64	B	3.82	・行事内容の改善充実 ・委員会活動の活性化 ・コロナ後の部活動等の精選と活性化 ・リーダー研修等による自主性の充実
進路指導	12 自己を理解し、進路について自ら考え積極的に行動できる生徒を育てる進路指導に努めている。	B	3.80	B	3.88	・3年間を見通した計画的進路指導の推進 ・進路情報の収集・進路開拓の推進 ・情報提供の工夫と進路意識の醸成 ・インターンシップの充実 ・異校種、産学連携の推進
	13 地域連携を推進し、体験的、実践的な学習を通して望ましい勤労観、職業観を育成している。	B	3.86	A	4.00	
	14 生徒が主体的に進路選択できるように情報収集・発信に努め、保護者・生徒・教師の相互理解を図っている。	B	3.78	B	3.84	
健康安全指導	15 健康保持への意識を高め、疾病予防、健康増進への態度を育てている。	A	4.00	A	4.00	・防災訓練の工夫改善 ・安全教育の推進 ・危機管理マニュアルの不断の見直し ・関係機関との連携
	16 生徒の生命安全を第一に考えた防災意識の高揚に努めている。	A	4.16	A	4.20	
	17 生徒のメンタルケアに努め、安定した学校生活を目指している。	A	4.18	A	4.26	
研修	18 校内外の研修を活用し、教育環境の変化や生徒の指導に係る研修・研究を行っている。	B	3.56	B	3.70	・実践的な校内研修の充実 ・校外研修の推進と研修成果の還元
組織運営・ 保護者、 地域住民 等との連携	19 共通意識を図り、協働体制の強化に努め、明るく活気のある職場づくりを推進している。	B	3.60	B	3.76	・校内組織間の情報の共有化 ・互いに話しやすい環境、互いに協力し合う職場づくりの推進 ・働き方改革のより一層の推進 ・部活道指導等、業務の見直し ・PTA活動の充実 ・HP等情報発信の工夫改善 ・地域・保護者との関係の充実
	20 北海道アクションプランを意識して、働き方改革を推進している。	C	3.10	C	3.20	
	21 教職員自身がメンタルケアや健康管理に務め、充実した教育活動が出来る職場環境づくりを推進している。	C	3.26	C	3.46	
	22 PTA活動・同窓会活動の促進に努めている。	C	3.42	C	3.34	
	23 学校の教育方針や教育活動について積極的に発信し、本校の教育活動への理解と協力が得られるよう努めている。	B	3.52	B	3.56	
	24 ボランティア活動や各種行事へ積極的に参加し、地域や家庭の期待に応えている。	C	3.28	C	3.32	

※ 評価基準

A：充分である = 4以上 B：概ね充分である = 3, 5以上 C：不十分である = 3, 5未満 D：改善を要する = 3未満

4 次年度以降の目標設定に反映させる自己評価結果及びその改善方策事項

(1) 今年度の自己評価から得られた改善方策について、各人、各分掌が目標を定め一層の推進を目指す。
(2) スピーディーで確実な実践に努める。
(3) 本校の取り組みを、保護者・地域の方々に理解いただく工夫に努める。
(4) 地元の専門高校として保護者・地域の協力・連携を推進し、地域や保護者から信頼され子供を学ばせたい学校を目指す。